

【熊本 SJCD 例会 抄録】

演題 全顎的治療にストロマンガイドを応用した 1 症例

演者名 添島義樹

日付 2015年10月27日

近年、インプラント療法は大学教育にも取り入れられ、その術式と周辺機器の進歩に伴い広く普及している。しかし一部の術者による診査、診断および術式の不備に起因する治療初期のトラブルや予後不良例が顕在化するにつれて、より安全で確実な治療が望まれるようになってきた。こうした背景のなかでインプラントを適用する際は、CT 画像による術前診査は必須のものとなり、より安全で、正確なポジショニングのためのガイドサージェリーを応用する頻度が高くなっている。

今回の症例は中等度の歯周病に罹患した初診時 60 歳の女性で歯周治療終了後にインプラントを適用し臼歯部の咬合支持を確立し、咬合再構成を行った。コンピューターシミュレーションに基づいたサージカルガイドを作成し、インプラントを植立することで、より適正なポジショニングが達成できた。

諸先生方のご意見、ご指導をお願いいたします。